

## がん予防のススメ Vol.57

**早期胃がんは治ります。**

検診受診による早期発見が大切です。



徳島大学病院  
消化器内科 助教

北村 晋志氏

胃がんは日本では2番目に多いがんで、年間約5万人の方が胃がんで亡くなっています。

大部分の胃がんはピロリ菌が引き起こす慢性胃炎の胃粘膜から発生します。薬を使ってピロリ菌を退治する（除菌）ことで、胃がんになる確率を下げることができますが、ピロリ菌除菌後も胃がん発生のリスクは残るため、除菌後の方にも定期的な内視鏡検査が必要です。

胃がんは胃の表面に発生し、次第に胃の壁に深く根を張るように成長して進行がんとなります。胃の表面にとどまっている早期がんのうちに見えれば治る可能性は高く、体への負担の少ない内視鏡手術で治療することもできます。内視鏡検査等での早期発見が大切です。ぜひ胃がん検診を受けて下さい。



徳島大学病院 がん相談支援センター  
がんの相談はこちらへ 相談窓口 Tel.088-633-9438

がん診療連携センター  
<http://www.tokudai-ganrenkei.jp>



徳島がん対策センター  
<http://www.toku-gantaisaku.jp>